

藩政期から明治中期まで瀬戸内、日本海、北海道を舞台に活躍した商船「北前船」に関するさまざまな資料を豪壮な船主邸（明治9年建築）の中で展示公開しております。また、資料館の建つ加賀橋立の地は、船主集落として平成17年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選ばれました。

北前船とは

江戸時代後半から明治時代にかけて繁栄した商売の形態のことで、大阪と北海道を往復し、莫大な富を得ていました。北前船の商売の特徴は、他人の荷物を運んで運賃を稼ぐのではなく、船主が荷主として各港で物を売り買いしながら航海するという点にあります。そのため、うまく行けば大儲けできますが、失敗すれば大損、それどころか遭難すれば、命の危険にさらされることもあります。まさに「板子一枚下は地獄」といった状況だったのです。

北前船のふる里

加賀市の橋立町には特に北前船主が多く、寛政8年（1796）の記録では、42名の船主の名がみえます。加賀市は船主のふる里と呼ぶにふさわしく、他にも瀬越町、塩屋町など船主が多くてた地域があります。

ロマンを語る豪壮な船主邸

資料館の建物は明治9年、橋立町の旧北前船主、酒谷長兵衛が建てた建物です。酒谷家は江戸時代から明治時代にかけて、6隻の船を所有し巨額の富を築きました。敷地面積は約1,000坪、オエと呼ばれる30畳の大広間には柱に8寸角のケヤキ、梁には巨大な松、大戸には秋田杉の一枚板など、最高級の建材を使った建物から、北前船で巨万の富を築いた船主の豪勢な暮らしぶりをうかがい知ることができます。広い邸内には北前船に関する貴重で珍しい資料がたくさん展示され、解説パネルや音声ガイドなどで分かりやすく見学することができます。



●お車でお越しの方は

- 北陸自動車道
片山津ICより10分
- 片山津温泉より15分、
山代温泉より25分

●列車でお越しの方は

- JR北陸線加賀温泉駅より
タクシーで15分
キャンバスで45分

開館時間 ●午前9:00～ 午後5:00(但し、入館は午後4:30まで)

休館日 ●年中無休

入館料 ●個人 310円 団体 260円(団体は20名以上)

高齢者(75歳以上) 150円

高校生以下および障がいのある方は無料

資料を尽くした船主邸が残る
橋立のまちなみ

九谷焼専門の美術館
石川県九谷焼美術館

船乗りゆかりの温泉と山中節
山中 山

橋立は、江戸後期から明治中期にかけての北前船の隆盛により船主・船頭・船乗りが集住した付です。屋敷地を囲む板垣、羽谷石の石垣、古い赤瓦といった特徴を持ち、茅葺き農家から進化した「橋立北前船主型」というへき独自の家を創りました。

大聖寺古九谷の杜 龍水公園内にあり、四季おりおりの美しい姿とともに九谷焼の名品を鑑賞できる庭園ミュージアムです。当地でつくられた数多くの作品を、前四季の廻り廻り出来まの形式ごとに区分けし、剪断す。上演される山中節は、船乗りたちが江差通分を赤室で、九谷焼の魅力を体感することができま。

山中温泉の元湯近くに建つ山中邸は、山中家器の粋を集め優雅なたたずまいを持つ建物です。通上がりに、芸妓たちの山中節四季の廻り廻り出来まの形式ごとに区分けし、剪断す。上演される山中節は、船乗りたちが江差通分を赤室で、九谷焼の魅力を体感することができま。

〒922-0654 石川県加賀市橋立町イ1-1
TEL 0761-75-1250/FAX 0761-75-2312
E-mail bunkashinkou@city.kaga.lg.jp



大きな船模型を展示し、柱や梁、板戸に貴重な建材が用いられた30畳敷の大広間



仏間
船主の屋敷に夏用・冬用として供えられた大小
一對の仏壇を、当時そのままに展示しています



船絵馬館
地元加賀の神社に、航海の安全を祈願して
奉納された絵馬を展示した土蔵

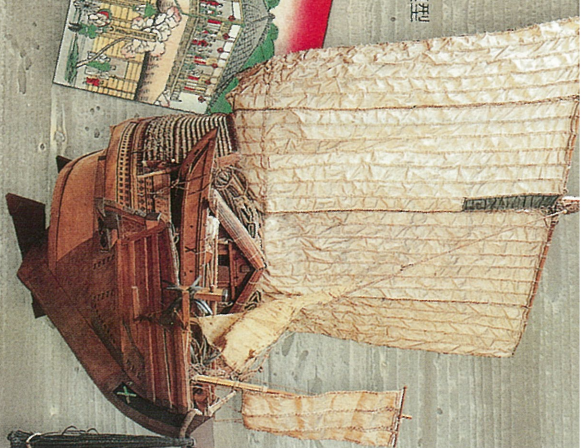


遠眼鏡

和磁石



船模型



引き札



アシサイ庭園

見頃:6月中旬~7月初旬